

海の学習 in 浜川青年の家 ～秩序 友情 実践～



〔心一つに、エッサッサ〕

5年生が、しっかりと体と心を鍛えてきました。当日は台風一過で好天に恵まれ、予定していた全ての活動を行うことができました。カッターの学習は台風の余波で白波が立つ中、クラスごとに3艘のカッターに乗船して、瀬戸大橋が見える大海原に向かって漕ぎ出したそうです。初めのうちはバラバラだったオールがしだいに揃うようになり、波をかき分けながら力強く進んだようです。地引網では、他校の小学生と一緒に2回網をひき、まずまずのとれ高で、中には50cm超のスズキもとれたそうです。その他にもキーホルダーづくりをしたり、海洋博物館で海の生物の見学をしたり磯の生き物に直接触れたりして楽しみました。二日間の集団宿泊訓練を通して、規律を守ることの大切さや気持ちよさ、友達と力を合わせたり助け合ったりすることの素晴らしさを、体で感じ取ってきたことでしょう。学んできたことを学校生活に生かし、最高学年に向けて下級生を牽引していく学年集団になっていくことを期待しています。



〔力を合わせて地引き網体験〕



〔キーホルダーづくり〕



〔磯の生きものに興味津々〕



バス旅行



1年



〔福山ファミリーパーク・福山城〕

2年



〔福山市立動物園・富谷ドームパーク〕

3年



〔藤原農園・希望園・神島資料館〕

4年



〔倉敷市立自然史博物館・美観地区・ライフパーク倉敷〕

5年（社会科見学）



〔JFEスチール西日本製鉄所〕

大いに盛り上がった高学年の学年部行事

【5年生】

～ 家族との触れあい ～

【6年生】



〔フラフープリレー〕



〔トルネードリレー〕



〔親子でボール遊び〕



〔パンくい二人三脚〕

学年委員さんには計画から当日の運営、準備・片付け等大変お世話になり、ありがとうございました。

回顧録 ④「命の限り 生きる」

担任していたときには、高い目標をもって常に前進してほしいという思いで、子どもたちには現状維持に満足してはだめだということをよく口にしていました。今でも使う言葉ではあるが、現状維持を最大の目標としている子どもがいるということ、あるときまで知らずに使っていた。教員になって数年後に大学で勉強する機会に恵まれ、高等部の養護学校（現在の支援学校）へ実習に行ったときに、A君に出会った。A君は、中学生のときに進行性の重い病気を発症し、高等部から養護学校に通い始めていたが、医師から余命3年の宣告を受けていた。（本人はそのことは知らない）手足の運動機能や会話が徐々に後退してきており、毎日痛みを耐えながら現状を維持するために一生懸命に訓練に励んでいたのである。同じクラスには他にも4人の生徒がいたが、会話や自力で行動することができるのはA君ただ一人であった。それにも関わらず、A君は学校で先生や友達と一緒に過ごしているときが一番楽しい時間ということであった。だから、どんなに体調が悪いときでも、ドクターストップがかからない限り、学校を休むことはないという話を担任から聞いた。

当時そんな病気があることも、そうした子どもがいることも知らなかった私は、大きな衝撃を受けた。発病後、全身の力が弱くなり、歩行も話すことも困難になってきていることをA君は理解しているのである。どんな思いで学校に通い、学習や機能訓練に励んでいるのか、A君の気持ちを考えるととてもつらかったことを今でも忘れることはできない。A君はその2年後に亡くなったことを、担任が教育雑誌に投稿しているのを読んで知り、深い悲しみを覚えた。

A君と出会ったことで、それまでの知識や経験のなさ、自分の未熟さを痛感するとともに、命や生き方について考えるようになり、私の教師生活の中で大きな転換期になった。A君との出会いに感謝するとともに、A君は私の心の中で今でも生き続けている。